

大分市総合開発計画

郷土をより住みよく豊かに

5本の柱で諸施策を行う

大分市の都市の様相は日一日と大きく変わっています。この変動に際しては、郷土をより住みよく豊かにし、市民福祉の向上をはかるため昭和四十六年に大分市総合開発計画を決定しました。

この総合開発計画は昭和六十年を目標に市政各般における将来のあるべき姿、望ましい姿をとらえ計画を具体的に実現するため前・中・後期の各五カ年の実施計画にもとづいて諸施策の実現と推進をはかっています。

この諸施策のめざす都市像は美しい青空と緑に映ゆる空間の恵みのなかで市民がより豊かなより快適な生活を営むことのできるまち、そして飛躍的に発展する活力あふれるまちです。

すなわち産業開発と社会開発との調和がはかられた豊かで快適な生活都市をめざしているものであり、また将来に限りなく発展する管理機能都市、且つ福祉と教育文化の充実した人間主体の都市をめざしているものです。

そこで、今回はこの計画がスタートして現在に至るまでのあしあとをふりかえってみることにしました。

30万都市に仲間入り

財政規模も大型に

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

現在ではすでに大分臨海工業

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

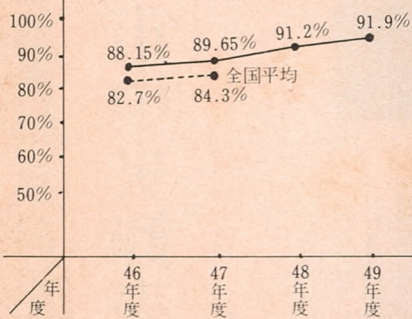
昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

昭和三十九年一月に新産都に地帯の建設は第一期計画が完了指定されて以来、大分市は都市化が急速に進んでいます。

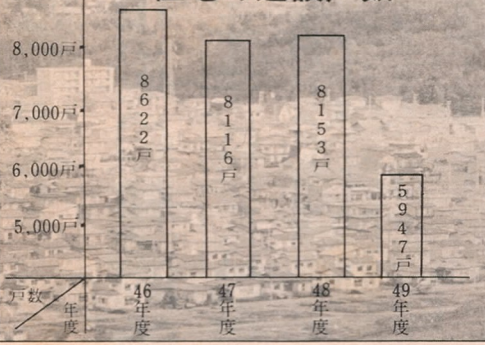
発展する大分



上水道の普及率



住宅の建設戸数



住みたくなる都市づくりを

すべての市民が明るく快適な生活を営むうえに欠くことのできない生活環境の整備は市政の重点施策として取り上げられてきました。

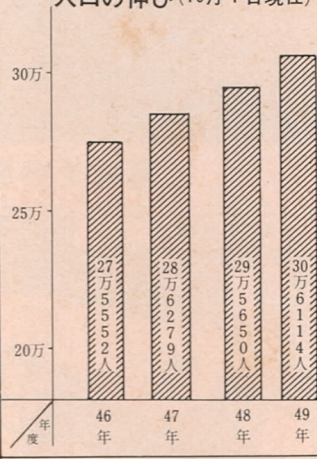
しかし、近年の急速な都市化の進展と生活水準の向上とによって都市施設に対する要望が増加しています。このことから将来にわたって変えることのない重点施策として積極的に推進し、だれもが住みたくなる都市づくりに万全を期して行くことにしています。

市民生活に直結した生活環境の整備では住宅をはじめ上水道、下水道、清掃、公園緑地、保健衛生、公害、消防、交通安全の九項目の施策を推進しています。

さらに高層ビル火災に備えるため四十一mはしご付消防ポンプ車を購入しました。

生活環境の整備

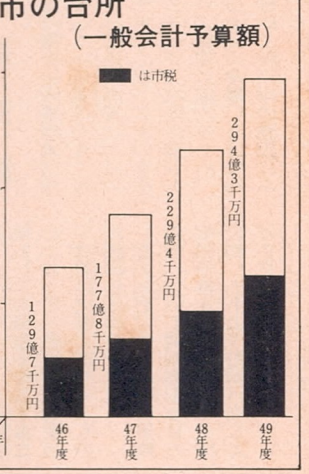
人口の伸び(10月1日現在)



このことは人口順位で全国六百四十三市四十五位、九州では北九州・福岡・熊本・鹿児島に次ぐ第七位と高い位置を占めています。

その後も人口は増え続け昭和五十年一月末現在では三十九万四千四百八十八人に達しました。一方、都市が発達するにつれて青空と緑に映ゆる豊かな都市づくりのために使う市の家計簿もふくらみ四十九年度の九月補正時点では一般会計で二百九十四億二千九百三十六万六千円となりました。三月時点では三百億を軽く突破すると思われています。市ではこの予算を駆使して郷土をより住みよく、より豊かにするための諸施策に使っています。

市の台所 (一般会計予算額)

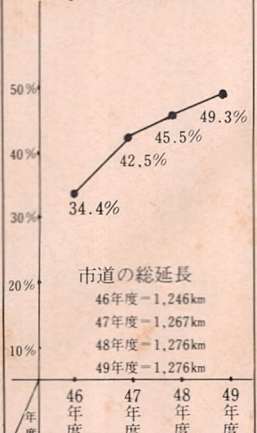


【下水道工事すむ】下水道は市民のみならず健康で快適な生活をおくるためには欠くことのできない施設です。市では46年度から下水道事業に本格的に取り組んで現在では終末処理場4カ所およびこれに接続する管の建設が完了しています。さらに49年度からは終末処理場の建設とシールド工法による管の埋設工事を中心に進めています。

都市基盤の整備

未来に向って限りなく発展する東九州の中枢管理機能都市をめざして、大分市全域の開発、すなわち土地利用に重点を置き、機械的で秩序ある都市形成の実現を図っています。

市道舗装率



市道の総延長
46年度-1,246km
47年度-1,267km
48年度-1,276km
49年度-1,276km



【新装になった鶴崎本町】昭和38年から施行されていた鶴崎本町区画整理事業がほぼ完了しました。国道197号線を中心とした生活関連道路が整備され、昔の面影がまったくなくなり、近代都市としての機能を備えたすばらしいまちになりました。

福宗に清掃工場を建設

公害防止協定を新日鐵等と結ばれました。また中小企業には低利で長期の公害防止資金の融資を行っています。

清掃 四十六年十一月から大型ごみの収集を始めることになり、十七年には市内全域のゴミ収集も始めました。また一日三百トンの処理ができる清掃工場も福宗に五月完成します。

新清掃工場完成ま近

広域市町村圏事業の一環として野津原町福宗に約14億円を投じて建設中の最新鋭清掃工場は、今年5月に完成予定です。これが完成すると大分市のゴミ処理に大きな役割を果たすことになります。

河川 砂防 災害から市民の生命および財産を守るため河川改修や砂防事業も積極的に推進し防災に万全を期しています。

交通 運輸 都市交通のネットワークとなる踏切の問題は大分駅を高架にし、交通の流れをスムーズにするため踏切相互の交差を立体化するよう高架化の早期実現に努力しています。

青空と緑に映ゆる豊かな躍進都市づくりをめざす

社会福祉の充実

健康と希望にあふれる生活を

憲法第二十五条には「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定されています。大分市でも社会福祉の充実とすることを重点施策の一つとして市政を推進しています。

総合開発計画のなかでも健康と希望にあふれる市民生活の実現をめざして次のことを基本方針として社会福祉の充実につとめています。

児童福祉 心身ともに健全な児童の育成をはかるため児童をめぐり生活環境の浄化、相談機能の充実、福祉施設の整備等に

老人福祉

老後に生きがいをも

老後、それはだれにでも必ずやってくるものです。その老後が生きがいのある健康で安定した毎日であるよう、また、おとしよりみなさんが幸せになるよう市では毎年新しい老人福祉施策や改善を行っています。

年金対策 七十歳以上のおとしより一万一千人に敬老年金をおわたりしています。年金額は七十歳から七十四歳までが年額三万六千円、七十五歳から八十四歳までが年額六千円、八十五歳以上が年額九千円です。このほか県でも八十八歳以上の方に年額一万二千円の敬老年金と七十七歳の方に年額二千円の敬老年金をさしあげています。

保健対策 七十歳以上の方に無料で医師にかかれることにしました。また、六十五歳以上六十九歳までのねたきり老人の方も無料で医師にかかれます。このほか老人健康診査、便器購入に補助等を行っています。

産業の振興

中小企業対策と農業の振興に

市民の生活水準の向上を図り

より豊かな市民生活をめざして工業、商業、農林水産業の振興を図り、また中小企業、消費経済についても種々の施策を行っています。

工業 日本でも数少ない恵まれた立地条件を生かして、万全な公害防止に努めながら新産都二期計画の推進をはかり、あわせて既存工業の向上に努めています。

商業 「商業近代化モデル地域」の指定を契機に商業環境の整備および共同化、協業化による経営規模の拡大や近代化を進めています。

中小企業 中小企業をとりまく情勢は一段と厳しさを増しています。市ではこれに対処するため昭和四十七年に大分市中小企業振興条例を制定し、中小企

教育文化の向上

明るい健全な人づくりをめざす

未来を担う青少年を中心とした明るい健全な人づくりと、地域文化の向上を期するため、人福祉施設の整備充実、医療保健の充実をはかり、また働く意欲のある老人には職業のあっせん等を強化しています。

このほか身体障害者、精神薄弱者福祉等にも力を入れています。

識、技能をそなえ情操豊かな市民を育てるため格差のない施設および教育環境を保持し教育内容に充実し教育水準の向上につとめなければなりません。

このような状況のなかで市では学校教育、社会教育、社会文化の四項目の諸施策を掲げ教育文化の向上に努めています。

社会教育 学校教育に比べ生が教育とされる社会教育活動の範囲は広がっています。それぞれの分野に適合した施策を実施して行かなければなりません。市では社会教育の場として霊山青年の家や鶴崎公民館を新設しさらに現在少年自然の家を建設をすすめています。

なお市民みなさんの教育的要求を把握して教育講座の拡充と指導者の育成をはかり時代の進展に即応した市民の教育の向上に努めています。

進む学校建築

学校教育 幼稚園教育および義務教育は情勢の変動に対応した教育環境と施設の整備充実を求め、さらに特殊教育の充実と向上に力を入れています。

また、都市化にともなう児童の増加する地区は幼稚園、小学校を新設し適正な規模で授業ができるようにしています。

一方、生活に困っている家庭や特殊学級の児童生徒には学用品、修学旅行費、校外活動費、通学費、給食費を補助し、誰もが平等に勉学に励むことができるようにしています。

一方、教育の機会均等をはかるうえから奨学金制度を設けるとともに働きながら学べる市立高等職業学校を開設し、誰もが気軽に勉強できる場を設けています。



【市社会福祉センターオープン】市民福祉の拠点として市社会福祉センターが49年5月1日にオープンしました。このセンターは身体障害者、精神障害者、老人、母子家庭、児童おのの場として建てられたもので、毎日多数の利用者でにぎわっています。

児童福祉

児童の健全な育成を

婦人の就業機会の増大にともない保育に欠ける児童は今後ますます増加が予想されます。これに対処するため公私立保育所の増設、保育の質向上と適正人員の確保につとめ乳幼児の健全な育成につとめています。

保育所の増設 保育を要する乳幼児をすべて収容することを目標に民間との調整をはかりながら地域の実態に即して順次増設をすすめて各学区ごとに適正な配置を促進します。

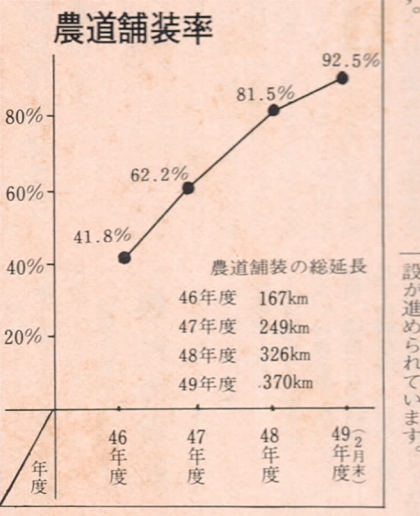
児童手当 多くの子供のいる家庭の児童の健全な育成をはかるため児童手当をさしあげています。

児童手当は一人につき月額四



【移動入浴車「かやわ」号が発車】移動入浴車「かやわ」号は、50年1月1日より、おとしよりや身体障害者などから大浴場までお風呂を運んでいきます。このバスは、おとしよりや身体障害者などから大浴場までお風呂を運んでいきます。

移動入浴車「かやわ」号は、50年1月1日より、おとしよりや身体障害者などから大浴場までお風呂を運んでいきます。このバスは、おとしよりや身体障害者などから大浴場までお風呂を運んでいきます。



体育施設を増強

社会体育 市民の皆さんのスポーツ熱が高まるにつれ体育の普及も、また目ざましいものがあります。

市では市民の健康増進と体力の向上のためスポーツ団体の活動と推進とあわせて社会体育施設の増設を進めます。

この施策の一環として市では新産都建設で海水浴場を失った市民に年間を通じて水泳ができる屋内市民プールを津留運動公園内に建設し市民の体力、泳力



【市営温水プールオープン】市民の水泳能力と体力の向上を願って49年7月2日に市営温水プールが開館しました。温水プールは常に年間を通じて30度程度に保ち、泳ぎが楽しめます。

市営温水プールは、市民の水泳能力と体力の向上を願って49年7月2日に市営温水プールが開館しました。温水プールは常に年間を通じて30度程度に保ち、泳ぎが楽しめます。

学校建築事業の推移

